

土井勇畫伯が

繪修業の旅へ

1929

近く憧れの巴里へ赴く

布^ハ生^ウんだ若^ワき天^テ才^{サイ}畫^ガ家^カ土^ツ
 井^イ勇^{ユウ}君^{クン}は來^キる十^{ジュウ}一^{イチ}月^{ゲツ}に藝^{ゲイ}術^{ジュツ}の
 都^{トウ}巴^ハリ^ーへ繪^エ修^{シュ}業^{ゲツ}の旅^{タビ}へ出^シ發^{ハツ}
 するこゝこになつた、同^{ドウ}君^{クン}の天^{テン}
 才^{サイ}に對^{たい}しては米^{ベイ}人^{ジン}知^チ名^{メイ}美^{メイ}術^{ジュツ}家^カ
 が大^{オホ}いに賞^{ショウ}讃^{サン}し、フ^フラ^ラン^ンス^スの
 巴^ハリ^ーへ行^イつて修^{シュ}業^{ゲツ}を繼^{ケイ}續^{ジュク}す
 るこゝこを頻^{ヒン}りに勸^{ケン}めてゐたも
 ので、同^{ドウ}君^{クン}も加^カ哇^{ワイ}島^{シマ}カ^カラ^ラへオ
 の實^{ジツ}家^カの事^ジ情^{ゼウ}を整^{セイ}理^リして愈^イく
 巴^ハ里^リ行^{コウ}きを決^{ケツ}心^{シン}したのである
 現^{ケン}在^{サイ}の計^{ケイ}畫^{ガク}では巴^ハ里^リへ約^{ヤク}二^ニヶ
 年^{ネン}滞^{テイ}在^{サイ}し、それから日^{ニッ}本^{ポン}へ行^イ
 つて中^{チュウ}央^{オウ}畫^{ガク}壇^{ダン}で其^{ソノ}腕^{ウデ}を試^シし
 て見^ミる考^{カン}へであるそうだ、尙^ナ
 ほ土^ツ井^イ君^{クン}は渡^{ワタ}佛^{フツ}に先^{サキ}立^タちて當^{トウ}
 市^シで告^{コウ}別^{ベツ}の自^ジ作^{サク}展^{テン}覽^{ラン}會^{カイ}を開^{カイ}催^{サイ}
 すべく目^{モク}下^カ製^{セイ}作^{サク}中^{チュウ}である

こ附近ふきんに飛行場ひこうじやうの建設けんせつを見た
ので、火薬庫くわやくこの同所どうじよに存在そんざいす
る事が問題もんだいこなつたが、是これは
近く適當てきとうな場所ばしよに移轉いてんされる
事ことになるであらう

椰子島へ野遊會

P150. 010

ヒロ本願寺ほんぐわんじ中女學校ちゆうじよがくこウ並に學園がくわん
生徒せいせいは十八日午前八時同校々
底ていに集合しうごウし徒歩とほで椰子島やししまへド
クニツクを催もよほした

敬神婦人會發 會式舉行

椰子島やししま大神宮しんぐうの合志神官ごウししんぐわんは敬
神婦人會しんかじんくわいの組織そしきを目論もくろんで
たが愈々組織しきを決定けつていし發會はつくわい式
を舉行きぎんした。會員くわいじんは既に二十
名に達たつしてゐるが爾今じこん毎月まいづき第
二の日曜日にちようびに集會しうくわいを行ふ筈はずで
ある。右みぎに就つき合志神官ごウししんぐわんは次
の如ごとく語かたつてゐる
此この會くわいを組織そしきした目的もくてきは同胞どうぼう
婦人中ふじんちゆうに是非ぜひこも迷信めいしんの思想しそウ

舉六點りくてんを獲得かくとくし第七
回は兩軍りうぐん共に無得點むとくてんでワイア
ケア軍ぐん遂つひに九對二くたいにのスコアで
大勝たいせつした。ワ軍ぐん投手とうしゆローデン
は敵てきに五安打ごあんたを許ゆるしたのみで